

文学部A方式I日程・経営学部A方式I日程・人間環境学部A方式

3 限 選 択 科 目 (60分)

科 目	ページ	科 目	ページ	科 目	ページ
政治・経済	2～22	日 本 史	24～37	世 界 史	38～51
地 理	52～65	数 学	66～68		

〈注意事項〉

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 試験開始後の科目の変更は認めない。
4. 数学は志望学部・学科によって解答する問題が決まっている。問題に指示されている通りに解答すること。指定されていない問題を解答した場合、採点の対象としないので注意すること。なお、以下の注意事項も参照すること。
 - ・解答を導く途中経過も書くこと。
 - ・解答はおもて面に記入すること(裏面は採点の対象にならない)。
 - ・その他、解答用紙に記載された指示にしたがい解答すること(この指示どおりでない場合は採点の対象としない)。
 - ・定規、コンパス、電卓の使用は認めない。
5. マークシート解答方法については、以下の注意事項を読みなさい。

マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

記入上の注意

1. 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
3. 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

(日 本 史)

〔I〕 つぎの史料を読んで、下記の問いに答えよ。

蓋し聞^{けだ}く、律は懲^{ちやうしゆく}肅を以て宗となし、令は勸^{むね}誠を以て本となす。〔A〕は則ち時を量りて制を立て、〔B〕は則ち闕けたるを補ひ遺れるを拾ふ。(中略)推古天皇十二年におよび、上宮太子親ら憲法十七箇条を作り、国家の制法ここより始まる。降りて天智天皇元年に至り、令廿二卷を制す。世人の所謂る〔C〕朝廷の令なり。ここに〔a〕天皇の大寶元年にいたりて、贈太政大臣正一位藤原朝臣〔b〕^{うげたまわ}、勅を奉りて律六卷、令十一卷を撰す。養老二年、また同大臣〔b〕^い、勅を奉りて更に律令を撰し、各十卷となす。今世に行ふ律令は是なり。(中略)律令は是れ政に従ふの本たり、〔A〕〔B〕は乃ち職を守るの要たり。方今、律令は頻りに刊脩^{かんしゆ}を経たりと雖も、〔A〕〔B〕は未だ編輯を加へず。(中略)今古を商量し、用捨を審察し、類を以て相従へ、諸司^オに分隸す。(中略)上は大寶元年より起こし、下は〔D〕十年にいたる、すべて〔B〕冊卷、〔A〕十卷となす。(以下略)

(〔D〕〔A〕〔B〕序)

問1 空欄〔A〕～〔D〕に入るもっとも適切な語句を解答欄に記せ。

問2 空欄〔a〕〔b〕に入るもっとも適切な人物の名を下記の〔語群1〕からそれぞれ一つ選び、その数字を解答欄にマークせよ。

問3 下線部アは西暦668年に相当する。これに関連して、以下の文1～4のなかから正しいものを一つ選び、その数字を解答欄にマークせよ。

- 1 2年後に、庚午年籍が作成された。
- 2 2年後に、壬申の乱が起こった。
- 3 この年、大津宮に遷都した。
- 4 この年、法隆寺が全焼した。

問4 下線部イに関連して、以下の文1～4のなかから正しいものを一つ選び、その数字を解答欄にマークせよ。

- 1 翌年、平城京に遷都した。
- 2 この年、和同開珎が鑄造された。
- 3 この年、百万町歩開墾計画が発表された。
- 4 翌年、持統太上天皇が死去した。

問5 下線部ウに関連して、大宝律令施行時代には、死後、太政大臣を贈官された人物がもう一人いる。この人物は天武天皇の皇子で、日本書紀編纂事業を主宰した。この皇子の名を下記の〔語群1〕から一つ選びその数字を解答欄にマークせよ。

問6 下線部エに関連して、以下の文1～4のなかから正しいものを一つ選び、その数字を解答欄にマークせよ。

- 1 この年、右大臣は長屋王であった。
- 2 この年、天皇は元明天皇であった。
- 3 この年、皇太子は首皇子(後の聖武天皇)であった。
- 4 この年、太安万侶が古事記を撰上した。

問7 下線部オの「諸司」のなかで、仏事や外交事務を担当したものを下記の〔語群2〕から一つ選び、その数字を解答欄にマークせよ。

〔語群1〕

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1 鎌足 | 2 房前 | 3 仲麻呂 | 4 不比等 | 5 道鏡 |
| 6 桓武 | 7 文武 | 8 聖武 | 9 天武 | 10 称徳 |
| 11 舎人 | 12 刑部 | 13 草壁 | 14 大友 | 15 高市 |

〔語群2〕

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1 式部省 | 2 兵部省 | 3 民部省 | 4 治部省 | 5 刑部省 |
|-------|-------|-------|-------|-------|

〔Ⅱ〕 つぎの文章を読み、下記の問いに答えよ。

平安後期、源氏の一流である河内源氏は、東国に勢力を広げたが、源義家ののち、一族間の内紛によって勢力がやや衰えた。対照的に、院と結んで地位を高めたのが伊勢平氏である。伊勢平氏の嫡流である平清盛は、1159年の の乱で、河内源氏の嫡流である を滅ぼした。

清盛は 上皇の院政を武力で支えて昇進をとげ、武士としてはじめて となった。このころ、各地で武士団の成長があり、清盛は西国の武士を家人として編成して強大な武力を築いた。さらに清盛は、娘を 天皇の中宮とし、その子の 天皇が即位したため、天皇家の外戚となった。また多数の荘園・知行国を手に入れ、それらが平氏政権の経済的な基盤となった。

平氏政権による権力の独占は、 ^b上皇や貴族、大寺院、源氏などの不満を呼び起こした。こうした情勢を受け、 上皇の皇子以仁王は、平氏打倒を呼びかけた。これを受けて立ち上がったのが源頼朝である。 の子で、 の乱ののち、 国に流されていた頼朝は、 国の鎌倉を根拠地として勢力を拡大し、1183年には 上皇に東国の支配権を認めさせた。

1185年に 国の壇の浦で平氏が滅亡すると、頼朝は諸国に守護、荘園や公領には地頭を任命する権利などを獲得した。こうして、頼朝は支配権を西国にもおよぼし、1192年に に任命され、武家政権としての鎌倉幕府が確立した。

頼朝の死後、幕府の実権を握るようになったのが北条氏で、執権の地位を一族で受け継いだ。勢力を拡大する幕府に対して、朝廷では 上皇を中心に政治の立て直しがおこなわれた。1221年には、 上皇が執権の北条義時を追討するために兵をあげた。この の乱で圧倒的な勝利を収めた幕府は、朝廷に対して優位な立場を築いていった。

問1 空欄 ～ に入るもっとも適切な語句または人物の名を、

以下の語群ア～ネのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | | |
|--------|---------|-------|-------|
| ア 治承 | イ 平治 | ウ 保元 | エ 承久 |
| オ 貞永 | カ 源為朝 | キ 源義朝 | ク 源頼政 |
| ケ 後醍醐 | コ 後白河 | サ 後鳥羽 | シ 後三条 |
| ス 安徳 | セ 鳥羽 | ソ 高倉 | タ 左大臣 |
| チ 太政大臣 | ツ 征夷大將軍 | テ 陸奥 | ト 武蔵 |
| ナ 相模 | ニ 伊豆 | ヌ 安芸 | ネ 長門 |

問2 下線部 a に関連して、平安時代の武士について述べた文として、正しいものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 紛争を鎮圧するために各地に派遣された中・下級貴族のなかには、そのまま現地に残り、武士となるものがあられた。
- イ 桓武平氏の平将門は、相模を根拠地として争いをくり返すなかで、国司とも対立するようになり、反乱を起こした。
- ウ もと伊勢の国司であった藤原純友は、瀬戸内海の高橋をひきいて反乱を起こしたが、源経基らによって討たれた。
- エ 朝廷は、地方武士を衛士として奉仕させ、宮中の警備に用いたり、貴族の身辺や都の市中警護にあたらせたりした。

問3 下線部bについて述べた文として、誤っているものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 日宋貿易に力を入れ、瀬戸内海航路の安全をはかるとともに、摂津の大輪田泊を修築した。

イ 1177年、京都郊外の鹿ヶ谷で平氏打倒を計画したとして、藤原成親・俊寛らを罰した。

ウ 1180年、都を福原京に移したが、まもなく平安京にもどし、反平氏の動きに備えた。

エ 清盛の死や養和の飢饉で基盤が弱体化し、北陸で源義経に敗北すると、西国に都落ちした。

問4 下線部cについて述べた文として、正しいものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 藤原秀衡を討ち、陸奥・出羽二国を支配下においた。

イ 公文所の長官に、東国御家人の大江広元を任じた。

ウ 1190年に上洛し、右近衛大将に任じられた。

エ 北条政子を妻とし、長男の実朝が家督を相続した。

問5 下線部dに関連して、鎌倉幕府の守護・地頭について述べた文として、誤っているものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 守護は、国内の御家人に対して京都大番役を催促した。

イ 守護は、主として西国出身の御家人が任命された。

ウ 守護は、国内の御家人を指揮して治安維持にあたった。

エ 地頭は、年貢・公事の徴収・納入と所領の管理を任務とした。

問6 下線部 e に関する説明として、正しいものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 北条時頼は、引付のもとに新たに評定をにおいて評定衆を任命し、裁判制度の確立につとめた。

イ 北条時宗は、御成敗式目を制定し、御家人同士や御家人と荘園領主のあいだの紛争を裁く基準を示した。

ウ 北条義時は、侍所別当の和田義盛を滅ぼし、政所別当と侍所別当の地位をかねてその権力を固めた。

エ 北条泰時は、二度にわたる元の襲来にさいして、執権として幕府軍を指揮した。

問7 下線部 f に関連して、乱後の幕府の政策について述べた文として、正しいものを、以下のア～エのなかから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 京都に執権をにおいて、朝廷の監視、京都の警備、西国の統轄にあたらせた。

イ 国司の得点を保障する新たな基準として、新補率法を定めた。

ウ 朝廷方についた貴族や武士の所領を没収し、その地に連署をおいた。

エ 三人の上皇を配流し、仲恭天皇にかえて、後堀河天皇を即位させた。

〔Ⅲ〕 つぎの文章を読んで空欄 1 ～ 12 に入るもっとも適切な人物を、下記の a～z のなかから一人選び、その記号を解答欄にマークせよ。

1 江戸時代を通じて儒学のなかで幕府ともっとも深い関係をもったのは朱子学であった。人は、人間としての自主性を重んじながらも、現実の社会の中では、上下の礼節や秩序にもとづく職分を忠実に果たしながら生きるべきだとするのが朱子学の思想であった。京都相国寺の禅僧であった 1 は、豊臣秀吉が引見した朝鮮の使節と交流して朱子学に傾倒した。文禄・慶長の役で捕虜となった朝鮮の学者とも交流して朱子学を中心とする学問を深めた。また、みずからは 2 から出仕を求められたが仕官せず、代わりに 3 を推挙した。

2 1 の門人には、京学派を受け継いだ 4 がいたが、この門人で幕政に大きな影響を与えたのが 5 である。5 は、最初、加賀藩主の 6 に仕えたが、そののち將軍 7 の侍講となった。7 は、江戸上野忍ヶ岡にあった孔子廟や学問所を湯島に移した。また、8 を還俗させて大学頭とした。5 の代表的な門人の中には、徳川吉宗の政権運営に参加した 9 もいた。

3 朱子学には、谷時中を実質的な祖として野中兼山・10 などが出た南学もあった。このころの幕府は、11 が將軍であったが、前將軍の弟で、朱子学を重んじた 12 が、幼年の將軍を補佐し、幕政を安定させた。12 は、神道と儒学を融合させた 10 を招き、藩政への意見を求めた。

- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| a 前田利家 | b 徳川綱吉 | c 徳川家光 | d 山鹿素行 |
| e 藤原惺窩 | f 熊沢蕃山 | g 木下順庵 | h 林 道春 |
| i 山崎闇斎 | j 池田光政 | k 新井白石 | l 荻生徂徠 |
| m 室 鳩巢 | n 林 春斎 | o 伊藤仁斎 | p 前田綱紀 |
| q 林 述斎 | r 徳川家康 | s 徳川家綱 | t 前田玄以 |
| u 松永尺五 | v 保科正之 | w 松永貞徳 | x 林 鳳岡 |
| y 徳川家宣 | z 松永秀久 | | |

〔IV〕 つぎの文章を読んで、下記の問いに答えよ。

2011(平成23)年9月、菅直人内閣が退陣した。辞職後、菅はそれまで中断していた四国地方の八十八箇所の霊場を巡ること(札所参り)を再開した。前内閣総理大臣として、これは、^a1885(明治18)年の内閣制度発足以来、前例のないことである。^b

前年の2010年6月に、衆議院において過半数を大きく超える議席数を有する民主党を与党として、総理大臣に就任した菅は、国会での所信表明演説において、国民の信頼をうけて政治的リーダーシップをとり、諸政策を推進したいとする意志を明らかにした。しかし、2011年3月に発生した東北地方太平洋沖地震に起因する原子力発電所の事故対策や復旧・復興事業など、日本が抱える諸問題への取り組みに際して、政治的リーダーシップを発揮したとする世評を得ることができず、辞職した。

振り返ってみると、日本近現代史のなかで、政治的リーダーシップを発揮しなかったという世評や歴史的評価を受けている政治指導者はほかにもいる。そうした世評や歴史的評価が必ずしも妥当とは限らないが、それが日本近現代の歴史描写になんらかの形で投影されることはよくあることである。

たとえば、江戸幕府最後の征夷大將軍となった徳川慶喜もその1人に含まれないだろうか。1868(慶応4・明治元)年正月、幕府軍と薩摩・長州両藩を中心とする倒幕勢力との戦闘(鳥羽・伏見の戦い)が始まったが、慶喜は間もなく大坂から海路江戸に向かった。さらに、2月、江戸城から上野寛永寺に移って謹慎した。その後、さらに水戸、駿府へと移った。そして、1869年9月謹慎を解かれたのである。この間、いわゆる旧幕府勢力、すなわち彰義隊や奥羽越列藩同盟などが新政府軍と戦い、最後に函館五稜郭で敗北し、駆逐されたことはよく知られている。これらの事態において慶喜が政治的リーダーシップを発揮したとは言えないであろう。

つぎに、いわゆる明治六年の政変における太政大臣三條実美を見てみよう。彼は、参議であった西郷隆盛を朝鮮に派遣する決定に加わったが、その後、岩倉具視・大久保利通・木戸孝允ら、いわゆる岩倉使節団の主要な人々から内治を優先

するべきであるとの意見が表明された。事態が紛糾する中で、三条は動揺し、ついには体調不良となり、一時政務を離れてしまった。そのために、右大臣であった岩倉具視によって西郷派遣案と派遣の無期延期案の両方が上奏されることとなった。そして、明治天皇は後者を採用したのである。それをうけて、西郷や西郷派遣案に賛成した板垣退助や江藤新平ら、いわゆる征韓派の参議は辞職した。この三条実美の例も、政治的リーダーシップの欠如と言えないだろうか。

日露戦争後に2度内閣総理大臣を務めた西園寺公望も、そうした例の一つであろう。与党である立憲政友会の党首として内閣を組織したが、党運営をもっぱら最高幹部であった原敬に任せていたことはよく知られている。また、政策をめぐって閣外から情報や圧力を受けると、それまでの態度を変えることがあった。原敬は、それに対する不快感をしばしば日記に書きとどめている。西園寺を、権力に対して淡々としていると評価することもできるが、総理大臣として政治的リーダーシップを発揮したとは言えないようである。

1937(昭和12)年6月に内閣総理大臣となった近衛文麿に対しても、強力な政治的リーダーシップが期待されたにもかかわらず、責任を放棄するかのよう^gに辞任したとしばしば言われる。内閣発足後間もなく、7月に発生した盧溝橋事件は、いわゆる日中戦争の発端となった。近衛内閣は、当初、不拡大方針を表明したが、戦火の拡大にともなって不拡大方針を放棄した。そして、蒋介石を中心とする国民政府との断交宣言ともいえる声明を発したり、また「東亜新秩序」の建設をめざすとする声明を発したりした。そして、結局、日中戦争を終結させることなく、1939年1月に退陣した。その間、国内では戦時における経済統制などを強める国家総動員法が成立した。その後、近衛は2度内閣を組織したが、英・米両国との戦争を断乎として回避する政策決定をせず、1941年10月に総理大臣の職を退いたのである。この事例も、しばしば政治指導者のリーダーシップ欠如の一例として取り上げられる。

敗戦後の政治史のなかで、画期をなす細川護熙内閣についても、その退陣に際し、世評はきびしかった。1993年8月、^h新生党や公明党・日本社会党・日本新党・民社党・新党さきがけなど8党派に擁立されて同内閣は成立した(細川総理大臣は日本新党所属)。これによって、1955年以来、長期政権を維持してきた自由

民主党を与党とする内閣は、いったん終止符を打ったのである。同内閣は、国民の期待を高めた。しかし、与党内の政策調整が進まず、細川総理大臣の政治資金に対する不正疑惑が国会で追及され、発足から1年もたたない翌1994年4月に退陣した。細川総理大臣の祖父が近衛文麿であったこともあり、祖父と同様、政治的リーダーシップに欠けるとの世評が目立った。

日本近現代史において、政治指導者への世評や歴史的評価は、一般にきびしい。政治指導者の評価について、しばしば結果責任という用語が使われる。それは、多くの人々が政治の結果を見て、政治指導者を評価するということである。政治指導者の苦悩など見えない面が考慮されることは少ない。もっとも、そうした世評や歴史的評価がはたして妥当なのかどうかを検証することも歴史学の役割の一つである。

問1 下線部 a に関連して、以下のア～エの記述のなかから、正しいものを1つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 菅直人は、市川房枝に直接師事して政治を学んだことを表明した。
- イ 菅直人は、津田梅子に直接師事して政治を学んだことを表明した。
- ウ 菅直人は、与謝野晶子に直接師事して政治を学んだことを表明した。
- エ 菅直人は、伊藤野枝に直接師事して政治を学んだことを表明した。

問2 下線部 b に関連して、以下のア～エの記述のなかから、正しいものを1つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 初代内閣総理大臣は、黒田清隆である。
- イ 初代外務大臣は、幣原喜重郎である。
- ウ 初代大蔵大臣は、高橋是清である。
- エ 初代内務大臣は、山県有朋である。

問3 下線部cに関連して、以下のア～エの記述のなかから、誤っているものを1つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 徳川慶喜は、いわゆる御三家の一つである紀伊徳川家の出身であった。
- イ 徳川慶喜は、将軍徳川家茂の時代に将軍後見職となった。
- ウ 徳川慶喜が将軍に任じられたのち、孝明天皇が死去した。
- エ 徳川慶喜は、王政復古の大号令により、将軍職を失った。

問4 下線部dに関連して、以下のア～エの記述のなかから、誤っているものを1つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 三条実美は、1863(文久3)年八月十八日の政変において、京都から追放された7人の公卿の1人であった。
- イ 三条実美は、1868年王政復古の大号令によって総裁に任じられた。
- ウ 三条実美は、岩倉使節団の外国視察中、いわゆる留守政府の中心であり、その下で学制や徴兵令が公布された。
- エ 三条実美は、1885年内閣制度の発足にもなって内大臣に就任した。

問5 下線部eに関連して、以下のア～エの記述のなかから、誤っているものを1つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 日露戦争後、内閣総理大臣を西園寺公望と桂太郎が交互に務めた時期は、桂園時代と称されている。
- イ 第1次西園寺内閣の時期に、日本社会党が結成され、同内閣は当面その存続を認めた。
- ウ 第2次西園寺内閣の時期に、労働組合期成会が組織され、労働組合の全国組織として発展した。
- エ 西園寺公望は、最後の元老として、1940年に死去するまで昭和天皇の側近の1人であった。

問6 下線部 f に関連して、原敬内閣について80字以内で説明せよ。句読点も1字に数える。算用数字は1マスに2字記入してもよい。

下書き用(横書き, 20字×4行=80字)→

問7 下線部 g に関連して、以下のア～エの記述のなかから、正しいものを1つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 近衛文麿は、1885年新聞『時事新報』に脱亜論と称される社説を発表した。

イ 近衛文麿は、1904年雑誌『明星』に長詩「君死にたまふこと勿^{なか}れ」を発表した。

ウ 近衛文麿は、1918年雑誌『日本及日本人』に論文「英米本位の平和主義を排す」を発表した。

エ 近衛文麿は、総理大臣として、第2次世界大戦の勃発をうけて、これに介入しないと声明した。

問8 下線部 h に関連して、以下のア～エの記述のなかから、正しいものを1つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 細川内閣は、企画院を設置し、総理大臣官邸の機能強化に努めた。

イ 細川内閣は、日韓基本条約に調印し、日韓国交正常化を実現した。

ウ 細川内閣は、日中共同声明に調印し、日中国交正常化を実現した。

エ 細川内閣は、政党助成法を成立させた。

問9 下線部 i に関連して、以下のア～エの記述のなかから、正しいものを1つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 1956年吉田茂内閣は、日ソ基本条約に調印し、日本・ソ連両国の国交を回復した。

イ 1960年鳩山一郎内閣は、日米相互協力及び安全保障条約に調印し、同年中に退陣した。

ウ 1964年佐藤栄作内閣は、東京オリンピック開催を迎えた。

エ 1985年中曽根康弘内閣は、男女雇用機会均等法を成立させた。